



川村清雄作「海舟書屋」(部分)

# 家族と歩んだ明治

海舟書屋へのいざない

赤坂氷川邸へ

ようこそ



携帯用碓箱 (勝海舟所用)



海舟没後の勝家集合写真

2023年

8月11日(金・祝)~11月26日(日)

## 大田区立 勝海舟記念館

Ota City Katsu Kaishu Memorial Museum

■開館時間 午前10時~午後6時

※月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始を除く

8月7日(月)~10日(木)は展示替えのため休館

■入館料 一般300円、小中学生100円(各種割引有り)

■所在地 東京都大田区南千束2-3-1

■電話 03-6425-7608

※最新の情報は、区ホームページをご覧ください。



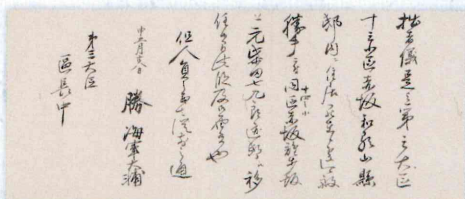
# 家族と歩んだ 明治 海舟書屋へのいざない

2023年8月11日(金・祝)～11月26日(日)

明治時代に勝海舟とその家族が暮らした「赤坂氷川邸」をご存知ですか。それは勝家が静岡を去り東京に移住した明治5(1872)年以降に定住した邸宅です。幕末期、家族に留守をあずけて奔走することの多かった海舟ですが、維新後は邸内の母屋の一室「海舟書屋」に腰を落ち着けました。海舟はここで様々な人物と交流を続け、家族と支え合いながら、明治政府と徳川家、市井の人びとのために力を注ぎました。

現在、赤坂氷川の地に家屋の名残はなく碑が建つのみですが、このたび邸宅の平面図や家族の肖像画を修復したことにより、邸宅の詳細やそこに暮らした勝家の人びとの姿が明らかになってきました。本展では、初公開資料をもとに明治時代の勝家と赤坂氷川邸の実態に迫ります。また、邸内の様子を紹介する特別動画を館内で上映します。

## 赤坂氷川邸のあゆみ

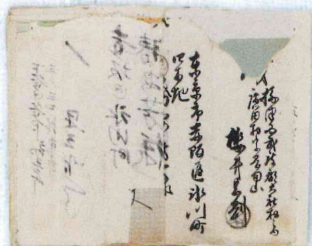


勝海舟届出書案 明治5(1872)年

明治初年、勝家は徳川宗家と共に静岡に移住しましたが、海舟は明治政府からの呼び出しにより静岡・東京間を往復していました。本資料は、海舟が東京出張時に居所としていた赤坂の旧紀州藩邸から、同じ赤坂の旧旗本屋敷に引っ越す際に、政府に提出した届出書の下書きです。

静岡から東京に戻った勝家の生活は、ここ赤坂氷川邸から始まり、海舟の終生の住まいとなりました。

## 海舟のもとに集う人や情報



海舟が暮らす赤坂氷川邸には、様々な出自・身分・職業の来客があり、海舟宛の手紙が到来しました。

左は海舟宛の年賀状や手紙の封筒類が括られた綴りです。海舟の幅広い交友関係が読み取れます。

年始其外尋常手紙封筒 明治32(1899)年

## ありし日の邸宅と勝家を物語る 絵図や写真の数々



海舟生前に描かれた肖像画。修復したことにより、画面が鮮やかによみがえりました。

このほか、初公開の絵図や写真資料などを展示します。

勝海舟肖像画(伊東甚八作)

## Information

おかげさまで  
達成しました!

### クラウドファンディング 「家族展を実現させたい!」プロジェクト

当館では勝海舟生誕200年の節目に「海舟とその家族に関する展示」を実現すべく、2021年にクラウドファンディングを行いました。前回展「家族と歩んだ幕末」に続いて本展でも、皆様のご支援を活用して修復した以下の資料を初公開いたします。

- 勝海舟肖像画
- 勝栄子(海舟長男・小鹿の前妻)肖像画
- 伯爵勝家所有地実測平面図

邸内の詳細が明らかに。  
続きは館内上映の特別動画で!

本プロジェクトの内容  
や、修復資料の詳細  
などはこちらから



伯爵勝家所有地実測平面図 ※修復後制作の複製を展示します。

### 生誕200年記念グッズのご紹介

#### 「勝海舟名言集」

当館ミュージアムショップで販売!  
価格:1万円(化粧箱入り、限定100個)

幕末期から晩年に至るまでの海舟の言葉を解説と共に19点収録しました。町工場の技術を集結させた特注品です。



### 次回展

#### エピソード「終着 安息の地 洗足池へ」

令和5年12月1日(金)～令和6年3月10日(日)

海舟が埋葬の地に選んだ洗足池は、海舟にとつてどのような意味をもつ場所だったのか。海舟死後の勝伯爵家の歩みも交えて紹介します。

勝海舟生誕200年記念特別展の最後を飾る展示です。

発行:大田区立勝海舟記念館  
令和5年7月発行